

南開大学日本研究院のあらまし

南開大学日本研究院は、現在中国国内における大学教育機構の中で、唯一日本研究及び当該研究の高レベル人材を育成する独立の実体機構である。本研究院は、1964年に成立した南開大学歴史研究所日本史研究室、及び1988年に成立した南開大学日本研究センターを母体として2003年4月に成立した。また、日本国際交流基金の重点的援助を受けている「中国における日本研究拠点」であり、中国教育部日本問題専門家チーム座長機構も務めている機構である。

日本研究院は、南開大学国家重点学科である世界史・世界経済、並びに国際政治の三つの学科と連携しており、その下に日本歴史文化研究部・日本経済研究部・日本政治及び対外関係研究部を設置している。専任研究員14名、兼任研究員40余名が所属しており、また国内外から多くの著名な学者を客員教授として聘用している。本研究院は、堅実たる学術研究を行い、数多くの国及び省・部レベルの研究プロジェクトを担当してきたのである。本日に至るまで、本研究院は累計200余部の著作を出版し、各レベルの受賞は51項目を獲得した。以上の業績の他にも、当研究院は、『南開日本研究叢書』(すでに出版されたのは37種類である)、並びに院刊である「南開日本研究」の出版にも力を尽くしている。また去る2010年においては、『日本近代化過程に関する研究』叢書十巻を出版することとなり、政治・外交・思想・文化・社会・教育などの各方面から日本近代以来の歴史について考察・検証を行われた。現在、教育部公募重大研究課題である「近代日本の対中認識及びその行動選択」というプロジェクトの研究を行っている最中である。

本研究院は、日本研究の人材を育成する拠点として、日本史(歴史学)・日本経済(経済学)・日本政治と外交(法学)専攻の修士課程、及び日本近代史・日本社会史・日本文化史・日本外交史並びに経済学における日本経済専攻の博士課程の学生を募集している。本研究院は、積極的に大学院生に良好な勉強及び研究環境を提供し、北京大学現代日本研究センター・復旦大学日本研究センターと連携して、年に一度の博士課程院生による日本研究論壇を開催している。また、本日まで、154名の修士学生、87名博士学生を卒業させ、それぞれ修士号と博士号を授与したのである。

本研究院は、オープン的運営を行っており、国内外の学者を共同研究・学術会議・講演などに招聘する事、また非定期的にはあるが「日本思想文化講座」、並びに年に一度の国際学術シンポジウムの開催に努めてきた。以上の経緯により、日本・韓国・香港など国家また地域の多数の大学及び研究機構と良好な学術交流関係を築いたのである。「南開日本研究叢書」(既刊37部)、日本研究院機関誌とする『南開日本研究』を出版する。